

BUỔI



Trường văn ②



Luyện tập (tiếp)

問題 59 :

何ごとをするにも準備が必要である。高い山の登山などという、山頂に立つのは、ほとんど一瞬^{いつ しゅん}とっていいほどだが、それに対する準備には、どのくらいの労力と期間がかかっているか、素人^{しらうと}には想像もつかないほどである。(中略)

このように、すべて「準備」が必要であることをだれでも知っているのだが、実に大切なことであるのに、あんがい「準備」なしで臨^{のぞ}んでしまうことに「対話」ということがある、と私は思っている。

その対話の成り行きが、その人の一生を左右する、とまではいかにしても、一生、問題を引きずってゆくことになるのに、準備なしで覚悟^{かくご}もないままに臨んでしまうために、失敗をしてしまうのである。

どうも、中学生の息子の様子がおかしい。落ち着きがないし、家族を避^さけるようにばかりしている。これはどうしても話し合いが必要だ。このようなとき、対話に臨むに際して、親はどれだけの準備をしているだろうか。このときの話し合いの結果には、その子の、あるいはその家族の将来がかかっているのだ。

ではどのような準備が必要か。まず体調を整えることである。ちゃんと食事をし睡眠をとり、たとえ話が徹夜^{てつや}になろうと大丈夫^{じょうたい}という状態でなければならない。次に①「心の準備」である。実は、これができていない人が多いのである。

「心の準備」で最大のことは、徹底^{てつてい}して相手の話を聴^きこうと覚悟することである。多くの親は、子どもと「対話」すると言いながら、まったく相互的な話し合いにならず、一方的に言い立てる場合が多いのだ。まず相手の言うことに耳を傾けて聴く。これはよほどの覚悟がないとできないし、何でも聴こうという心の広がりがないと駄目^{だめ}である。

親でも教師でも、「何でも自由に話さない」と言って話を聴こうとしたが、子どもが何も言ってくれない、という人がよくあるが、これはまさに「心の準備」不足である。

スポーツマンも、体調を整えて準備をしてゆくが、勝負のときは、大変な集中力とともに、リラックスしていないといけない。いわゆる「肩に力が入る」状態はよくない。

すべてに緊張しているのは駄目である。

「何でも自由に」などと言いながら、大人のほうが自由でなくては話にならない。どんなことを話しても大丈夫というリラックスした心のあり方を大人が持っていないと、口で言うだけでは意味がない。②相手の体を縛^{しば}っておいて、「自由に動きなさい」と言うのと同じような「対話」をしたがる 大人が多いのだ。

心の準備をしての対話はエネルギーも時間もかかって、大変だ。しかし、一生の間に何度かは、家族の間にこのようなことが必要だ、と私は思っている。

問い 1：①「心の準備」をしないで対話をするとうどんな結果になると筆者は言っているか。

1. 子どもに落ち着きがなくなり、家族を避けて、意見を言わなくなる
2. 親が子どもの話を聴くことができず、話が一方的になる
3. 話し合いが長引き、お互いに疲れて問題が解決しなくなる
4. 親が子どもの将来を一方的に決めてしまいがちになる

問い 2：②相手の体を縛^{しば}っておいて、「自由に動きなさい」と言うのと同じような「対話」とあるが、どういうことか。

1. 「何でも自由に」と言いながら、相手を緊張させるような対話
2. 「自由に話しなさい」と言って、親が子どもに何でも話させるような対話
3. 「何でも自由に」言いながら、相手が自由に言ったことには反対する対話
4. 「自由に話しなさい」と言って、親が子どもを安心させるような対話

問い 3：筆者がこの文章で最も言いたいことは何か。

1. 親子が重要な対話をするときには、親が自分の気持ちを十分に話せるような準備をしなければならない
2. 親子は一生の間に一度か二度は、子どもや家族の将来について重要な対話をするべきである
3. 親子が大切な対話をするときには、それぞれが相手の話を徹底的に聴こうとする心の準備をするべきである
4. 親子が大切な対話をするとき、親は体調を整え、肩の力を抜き、子どもの話をよく聴く準備をしなければならない